

南希タイムズ

横浜市立南希望が丘
中学校 美術部

編集長 .. 松村 春奈
副編集長 .. 若松 彩花
記者 .. 勝見、中泉(心)
谷藤、早川、中泉(文)
佐藤(妃)、佐藤(奏)
小野寺、八木橋、小島

新たなる生徒会 より良い南希中を目指して

～役員の方々の思い～

これからの南希中を 支えていく精鋭たち

生徒会長



1 長谷 葉流
2 学校のみんが常に笑顔で顔の筋肉がつかうくらい楽しく充実した学校にしたいです。
3 質問や意見に対して答えて、生徒の皆さんがやってみてほしいことや、生徒会ですでた意見を実現に向けて

副会長



1 石井 桃華
2 明るくて楽しくてみんなが過ごしやすい学校。

庶務



1 金子 柚
2 一人一人が過ごしやすい、笑顔であふれる南希望が丘中学校にしたいです。

会計



1 八幡 夢花
2 笑顔いっぱい誰の誰もが楽しめる学校にしていきたいです。
3 私はあいさつを通して、明るい南希望が丘中学校

新任記者



《佐藤 妃奈》
皆さんに面白い記事をお届けできるように日々精進いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。
(小野寺)



アマンデン洋菓子店

十二月二日(水)に、半前にリニューアルオープンした南希中近くの「アマンデン洋菓子店」というケーキ屋に取材してきました。私たちが突然訪問しても優しく対応してください、お話しまで伺ってくださることができました。

さらに進化する アマンデンの美味しさ

他にも、ブレインロールやモンブランはリニューアルされてから作られ、その中でもモンブランが一番のおススメだそうです。今回私は「玉様のシヨクラ」というチョコレートケーキを食べました。

た部員の感想は「リニューアル前のアマンデンのケーキらしさも残されている上で、改良を重ねて新しい「何度でも食べたいくらいおいしい」「果物の酸味と甘いクリームの相性が良い」などがありました。



色とりどりのケーキたち

さらに、クリスマスケーキの予約も受け付けているとのこと。



賑やかなクリスマス

初めての快挙 パソコン班

十一月十二日(木)に行われた「第七十回 神奈川県中学校・高等学校新聞コンクール」において、私たち美術部パソコン班の書いた南希タイムズが「神奈川県教育賞」と「優秀賞」を頂くことができました。

個人的には「生徒会だから」「女子(男子)だから」と言う固定概念や差別を少しでも改善していきたいです。
3 学年、性別、関係なく出来るようなグループの企画を考える。
4 今までの自分を見つめ直し、皆様の役に立って人間になる!

これからの「みんな仲良く」を心がけて、皆様に面白いと思って頂けるような記事を書けるよう日々精進して参ります。また、美術部員としての横断幕作成やイラスト制作、黒板アートなども積極的に取り組んでいきたいと思っています。
どうか、これからも私たち美術部パソコン班をよろしくお願いたします。
(松村)

知っていますか？クリスマス由来

皆さん、クリスマスが近づいてきました。クリスマスとは何の為にあるかをご存知ですか。日本人はサンタクロースからプレゼントを貰う日と言うイメージを持つ人が多いと思いますが、正しくは

イエス・キリストの降誕祭を示すものです。しかし、新約聖書ではキリストの生まれた日を特定していません。

《松村》
皆さんに面白い記事をお届けできるように日々精進いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。
(小野寺)

編集後記

今月号は、新しい生徒会役員の方のお話しを中心に送りました。次回も、更に皆様に楽しんでいただける記事を書けるよう努めて参ります。どうぞ、よろしくお願いたします。
(松村)

南希中プチ個展



第80回 全国教育美術展 入選!
美術部部长 田中 瑠那

先月に行われた全国教育美術展で、美術部の田中さんが入選しました。そこで、作品についての感想や工夫を伺ったところ「入選したことが本当に嬉しいです。質感の違いを出すため、絵の具の量や加える水の量を使い分けました。鶏には魂を込めました」とおっしゃっていました。



美術部 田中 瑠那

あなたに伝えたくて

テーマ

身近に広がるAI

記者

中泉 心花

皆さんはAIが今、急速に進歩しているのは知っていますか。身近なところで使われている私たちがサポートしている例えれば、職人の技術を人工知能で再現したAIロボット工場や、専用ソフトのAIロボットが洋菓子を大量生産することです。生地を焼き具合を画像センサーで解析し、重ね焼きする際の温度管理などの備わりのオーブンには、職人の動きを学習したAIが動きを再現して、温度管理を自動で行います。

「しつとり食感」を好みに応じた職人の技を再現ができるのです。職人にも負けないくらいおいしいお菓子ができ、作る時間も短縮できます。他にも、AIを活用した問診が一部の医療機関では始まっています。紙の問診票が不要になり、簡単な質問や追加の聞き取りが少なくなり、済むなど、いろいろの長所があります。私はこの記事を通してAIの身近な存在になってきたのだと改めて感じました。

AI問診 活用広がる

タブレットで回答「紙」より詳しく情報引き出す

医師 カルテの負担軽減 患者 病院にいる時間短縮

AI(人工知能)を用いた問診が一部医療機関で始まっている。紙の問診票に代わり、タブレットで患者が回答することで、医師のカルテ入力作業を軽減し、患者の待ち時間を短縮する効果が期待されている。

神奈川県横浜市の「横浜労務センター」では、AI問診システムを導入している。患者はタブレットで症状や病歴を回答し、医師はタブレット上で自動的にカルテが生成される。これにより、医師のカルテ入力作業が大幅に軽減され、患者の待ち時間も短縮されている。

また、AI問診システムは、患者の症状を分析し、適切な医療機関を紹介したり、緊急の場合は救急車を呼ぶよう促したりする機能も備わっている。これにより、患者の安全確保にも貢献している。

自宅でスマホ入力も可能

このAI問診システムは、約10分程度の時間で、患者の症状や病歴を正確に把握できる。また、紙の問診票に比べて、入力ミスが少なく、データの蓄積も容易である。さらに、患者は自宅でもスマホから入力できるため、通院が難しい患者にも利用しやすい。

導入している医療機関では、医師の負担軽減だけでなく、患者の利便性向上にも大きく貢献している。今後も、AI問診システムの活用がさらに広がることを期待している。

バウムクーヘン職人はAIユーハイム開発

洋菓子大手のユーハイム(神戸市)は、画像センサーを搭載し、職人の技を再現したAIユーハイムを開発した。ユーハイムは、生地の焼き具合を各層ごとに画像センサーで解析し、重ね焼きするタイミングや、温度管理を自動で行う。これにより、職人の技を再現し、安定した品質のバウムクーヘンを大量生産できるようになった。

ユーハイムは、このAIユーハイムを開発することで、職人の負担軽減と生産効率向上を実現している。また、消費者はいつでもどこでも、安定した品質のバウムクーヘンを楽しむことができるようになった。